

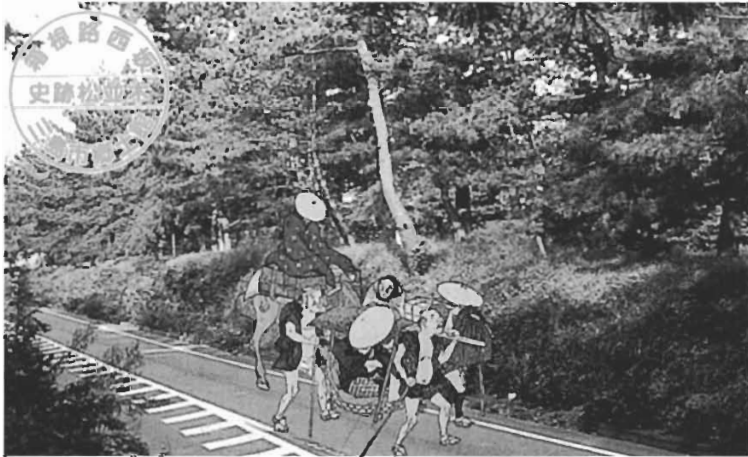
郷土資料館だより

Vol. 24. No. 2

2001.10.1

企画展「箱根八里」—西坂石畳と五ヶ新田—

10月27日(土)から12月16日(日)
9:00~16:30(月曜休館)



旧街道松並木



箱根石畳

天下の険、「箱根」は古代から関東と東海地方を隔てる天然の要害と考えられていました。東海道の往来が激しくなった江戸時代は、三島から小田原への箱根越えはまる1日かかる険しい旅でした。130年前まで、この箱根路を徒歩や馬で越えて多くの人々が上方と江戸を行き来し、東西の文化圏をつなぐ細い掛け橋が箱根八里の道程でした。

今回の企画展では、整備された箱根旧街道の様子を最新の発掘調査の結果から再現すると同時に、西坂と東坂の特徴、箱根越えの東海道の移り変わり、明治以降の箱根山麓の開発などを中心に「箱根八里」を多角的に紹介します。



関連講演会

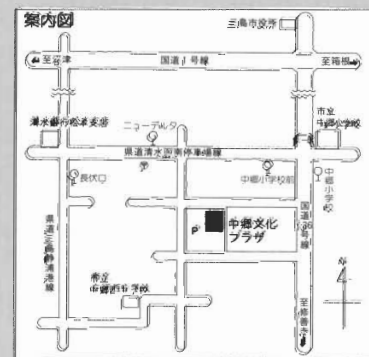
『箱根八里と箱根関所』

講師 加藤利之氏

(箱根町郷土資料館元館長)

平成13年10月30日(火)

19:00~ 中郷文化プラザ



企画展報告 「三島宿」

会 期 平成13年3月18日(日)
～5月27日(日)

入館者数 18,759人

展示資料数 127点

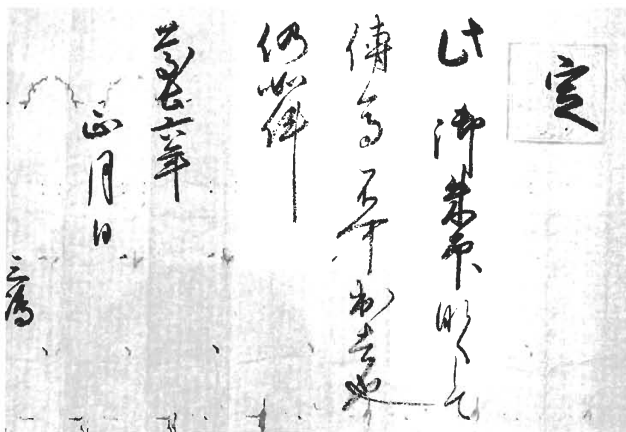
展示内容

- ①東海道の旅…東海道分間絵図・旅装束
- ②三島宿の賑わい…三島宿復元模型・浮世絵・三島宿風俗絵屏風
- ③三島宿に宿泊した人・物・動物…大名・朝鮮通信使・象
- ④本陣と問屋場…本陣模型・本陣料理・世古文書
- ⑤三島宿の名物…三島暦・干し鮎
- ⑥三島に残る宿場史跡

21世紀の幕開けである2001年は、東海道の宿駅制度ができてちょうど400年目を迎えます。このため静岡県ではこの街道が持つ歴史・文化を生かした個性豊かな街づくりを進めるとともに、静岡県の魅力を全国にアピールするため、「東海道400年祭」を12月まで開催しています。

今回の企画展は、この事業に参画し三嶋大社の門前町として、また東海道の名だたる宿場として栄えた三島宿について、新たに作成した三島宿の模型(写真右下)など中心に展示しました。

今回特に、各方面から、三島関係の浮世絵、世古本陣文書などを借用、公開したため多くの見学者にたいへん好評でした。



三島宿成立を示す家康伝馬朱印状1601(慶長6)年
重要文化財 矢田部家文書



東海道を歩いた象の瓦版(土屋 博氏蔵)



展示を見学する子供たち



三島宿復元模型(東より宿場を見る)

企画展報告「水といきる 水にあそぶ」

会 期 平成13年7月8日（日）
～9月2日（日）

入館者数 3,824人

展示資料数 507点

展示内容

- ① 県東部の河川・用水事情…絵図で見る現代とむかしの川や水辺
- ② 水辺の生活・風景…菰池・水泉園・楽寿園・桜川・御殿川・四ノ宮川・宮さんの川・カワバタの風景、水車小屋、水と三島の産業（水車・染色業など）、水（川）の生活の道具
- ③ 水と信仰…水神の分布、水と年中行事、水にまつわる伝説
- ④ 水を生かした街づくり…
水事情の変化、せせらぎ事業

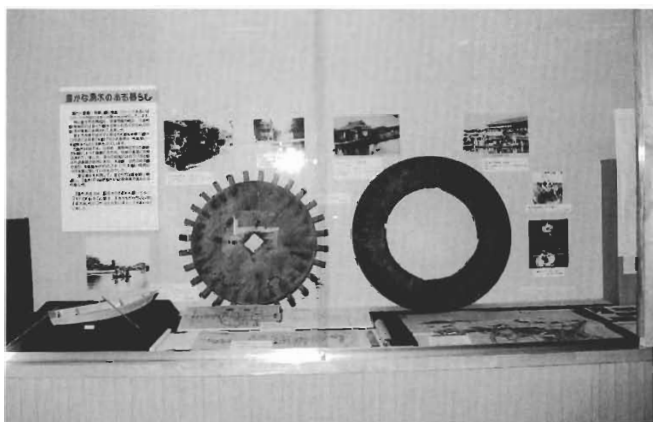
今回の企画展は、富士市立博物館・沼津市歴史民俗資料館との3館による共同企画でした。それにより湧水など暮らしと水の関わりを三島だけでなく、沼津や富士地区の県東部の広範囲にわたる内容を展示することができました。

この地域は、富士山、愛鷹山、箱根山からの水に支えられていますが、山間部では水源が乏しく、水の確保に努力していました。一方平地部ではあふれるような湧水にめぐまれ、水の大切さを感じることはなかったそうです。

今年は、例年になく少雨のため渇水対策を設ける地方もありました。現代とかつての生活・産業のスタイルをみつめ、水をはじめとするよりよい環境づくりへのヒントが見つけれられたでしょうか。



水のある暮らし 生活用品



豊かな湧水と水車のある暮らし 展示

富士・沼津・三島3市博物館共同企画展

水といきる 水にあそぶ

会 期 平成13年 7月8日（日）～9月2日（日）

会 場 三島市郷土資料館（市立公園 楽寿園内）

主催 富士・沼津・三島3市博物館連絡協議会

三島市 白滝公園（沼津市）展示（9月2日）

三島市 菰池川（沼津市）展示（9月2日）

三島市 白滝公園（沼津市）展示（9月2日）

今後の巡回予定

9/11（日）～11/11（日） 富士市立博物館 ☎0545-1211330

11/23（日）～11/24（日） 沼津市歴史民俗資料館 ☎0559-923266

ミシマバイク

パンフレット

ふるさと講座報告

第1回

「三島宿を歩く」

平成13年5月24日(木)
講師 迫田 信行 氏
(三島市郷土資料館運営協議会副委員長)

平成13年度第1回ふるさと講座は、「三島宿を歩く」のテーマで開催しました。

当日は、まず郷土資料館にて開催中の「三島宿」展を行程の導入として案内し、宿場復元模型にて全景を把握しました。

その後徒歩にて楽寿園正面より出発し、長円寺から円明寺に回り、平安鎌倉古道を西に歩きました。蓮馨寺より国分寺に向かい、林光寺、木町観音堂から、秋葉神社、千貫樋まで歩き、旧東海道を折り返して三石神社で昼食となりました。

午後は、御殿神社から、腰切不動、三島代官所跡、三嶋大社(茶室-不二亭)、祓所神社、三嶋曆師(河合邸)、六所王子神社、守綱神社、最後に東の見付で宿場の出入口の説明を受けて解散となりました。参加者 36人



東の見付で説明を聞く受講者

小学生の体験講座

「郷土教室」

第1回「手作りおもちゃ "水で遊ぼう"」

平成13年7月14日(土)
講師 瀬川 到 氏
(静岡マイスター有資格者)

参加者 市内小学4~6年生7名

最初に、実際にナイフなどを使用したことの有無を確認した後、切り出しナイフの扱い方を説明しました。その切り出しナイフで、ミズデッポウに使用する竹ひごを作りました。今度のはのこぎりの扱い方を習い、ミズデッポウの筒と押し棒のための竹をのこぎりで切りました。竹ひごを使って押し棒を作り、ミズデッポウを完成させました。

館の外に出て自分の作ったミズデッポウを試しました。

つづいて、水笛を作りました。

細めの竹に切れ目を入れ、仕切り板を音のよく出る位置で固定しました。そして、紙コップに穴を開け、笛の先を差し込んで固定し、紙コップに水を入れて鳴らしてみました。なかなかよい音が出ない人もいましたが、ナイフやのこぎりの扱いにも慣れて作業は最初よりもかなりスムーズに出来ました。



ミズデッポウを試す参加者

夏の郷土学習「水の散歩道」

講師 佐伯 忠夫氏（三島ゆうすい会・源兵衛川を愛する会）

平成13年8月1日（土）出席者 小学校5～6年生13名

最初に源兵衛川のビデオを鑑賞し、富士の湧水について学び、講師より川遊びに使う品物の説明を受け、笹舟をそれぞれで作りました。そして、開催中の企画展「水といきる水にあそぶ」を見学し、郷土資料館を出発しました。まず蓮沼川で、再現された水車や水時計の説明を受け、蛍の養殖の様子を見学し、水琴窟や井戸水を実際に体験、次の源兵衛川では、実際に川の中に入って、ハヤピンで魚を捕まえたり、水温を計ったり、流れの速さを測りました。川沿いを歩いて水の苑緑地や三島ばいかもの里まで歩き、途中で笹舟を流したりしながら三島田町駅までの散策でした。



水の苑緑地を歩く受講生

暑い日でしたが、水辺は涼しく、15℃の三島の水の冷たさが体験できました。

縄文土器作り教室

猛暑と言われた夏でしたが、今年も毎年開講している縄文土器作り教室を実施しました。

市内の小学生21人それぞれが、思い思いの形に土器を作り、個性豊かな土器づくりに挑戦しました。

一日目7月25日（水）は「土練り」です。赤土・粘土・砂に水を混ぜ、約2時間かけて練りあげました。汗を拭きながらの半日でした。

二日目7月27日（金）は「成形」です。前回練った粘土を使って円板状の底を作り、底の上に粘土を積み上げ、よく乾燥させます。

三日目8月24日（金）は「焼成」です。縦3m×横2m位の炉を作りカラ炊きをし、オキを作ります。この中に、土器を入れ、約1時間焼きます。火がすっかり落ち十分焼かれた土器が赤銅色になったら、自分だけの縄文土器の完成です。



成形をする受講生



完成した縄文土器を前に

三島の水路・橋・水車

三島には現在多くの水路が流れています。もともと三島の自然河川は御殿川^{ごてんがわ}・四ノ宮川^{よんみやがわ}の2本でした。この川沿いに弥生時代の集落が発展し、その一つは現イトーヨーカドーの地にあった奈良橋向遺跡^{ならはしむかい}です。遺跡の水田は御殿川の旧流路を利用していることが発掘調査の結果明らかとなりました。

古代より三島の人々は、生活のための水を確保すると共に、水田を増やすことに苦心しています。小浜池・浅間神社・水泉園・菰池から流下する水を田に引くために、多くの水路が引かれたのです。特に中世以後、現在の三島を形作る、大きな用水が整備されています。

1 小浜用水

戦国時代、16世紀前半に小田原北条氏と駿府の今川氏が講和し、婚姻関係を結んだ時に北条氏からの婿引き出物として、小浜池の水を国境を越え、駿河の国に送った用水です。この時、境川を渡る水の橋「千貫樋^{せんがんどい}」が作られています。

2 三島宮川用水^{みやがわ}

三嶋大社の神池の水は三島駅の北東約1キロメートルにある大場川の幸原堰^{せき}から引かれています。この神池は鎌倉時代初期に源頼朝が三嶋大社を整備した時に新たに造営されたものですから、宮川用水はこの頃に引かれたと推定されます。

3 源兵衛川^{げんべえがわ}

小浜池（現、楽寿園内）の膨大な湧水を南の中郷地域の水田地帯へ引く水路。元々は四ノ宮川の水を広瀬橋の地点から南へ引いています。水路を開削したと伝えられる寺尾源兵衛は戦国時代末から近世初頭の三島宿の住人、江戸時代は飛脚問屋を営んだ家でした。源兵衛が開削する前からあった小規模の用水路を、大量の水を供給できるように大工事を行ったものです。

4 桜川

御殿川へ落ちる白滝公園・菰池の湧水を、堤を築いて東南の三嶋大社脇^{はらいどがわ}の祓戸川へ落としたもの。水流が速く、堤が何度も壊されたため、人柱を立てて工事が完成した話は有名な伝説です。

この水は三島宿の家々の裏に流れる水路に落ちた。宿内を流れた後、南の中村・中島の水田を潤しています。

桜川の工事は近世初頭と推定され、三島宿形成の重要な要素と考えられます。水量が減り川幅が狭くなった御殿川（上流は瀬戸川と呼ばれていた）の川岸に新たに問屋場が建設されたものと思われ

5 新掘川^{しんぼりがわ}

小浜池・浅間神社の水を南に引き、小中島（本町・南本町）の人々の生活用水となっていました。江戸時代に本陣のほか、宿の生活用水として新たに引いた水路で、宿の南で四ノ宮川に落ちます。

この水は中郷の水田の水不足を補うものでもありました。

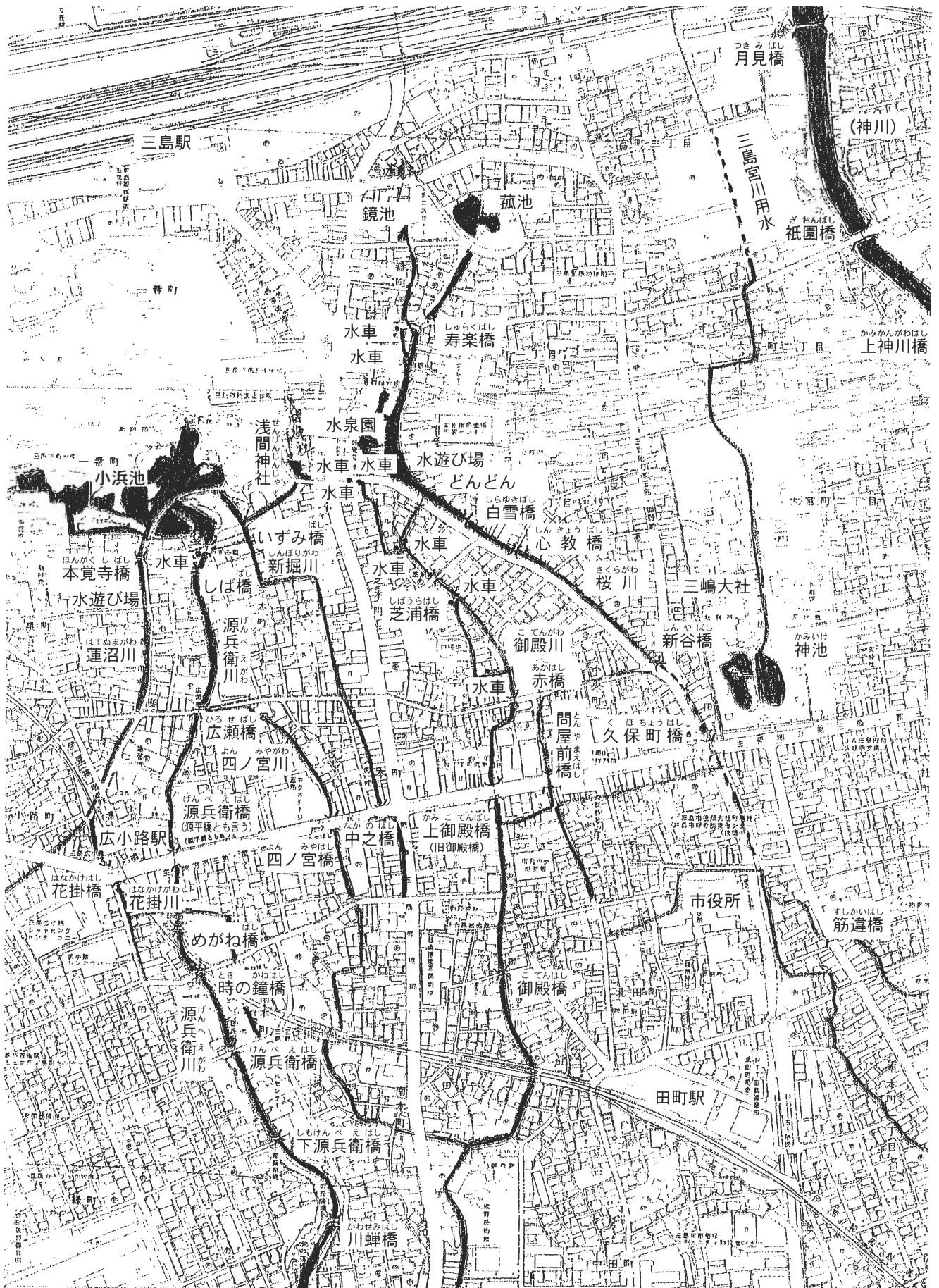
三島市街地の水車

湧水を利用した水車を旧三島町（今の市街地）特に芝町^{しばちょう}（芝本町）近辺で多く見ることができました。これら水車は米を搗くもので、水車所有者はツキヤと呼ばれ、農村から購入した米を精米し、三島宿民・町人に販売したものです。

明治6年（1873）に水車仲間による親睦会^{すいじんこう}「水神講」が始まります。この時19人のツキヤが集まっています。明治36年（1903）に三島に電気が引かれると、1台また1台と水車は減っていききました。昭和3年（1928）の「水神講」には9人出席、戦後には三島から水車の姿を見ることもなくなりました。

地図には現在判明しているかつての水車の位置を示しました。

三島市街の水路・橋・水車



新 収 蔵 資 料

郷土資料館に次の方からご寄贈いただきました。ご協力ありがとうございました。(敬称略)

平成13年4月～7月寄贈分

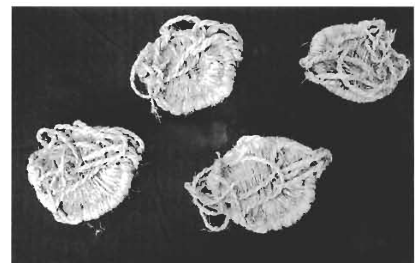
梅原 多恵子 三島市御園
袴 1点
など

近藤 義之 三島市加茂川町
水がめ 1点
箕 1点
容器(タンク) 1点
花さし 1点
徳利 4点
時計・台車 各1点
製麺器 1点
火消し壺 1点
もじり・漁獲箱 各1点
など

鈴木 達哉 三島市中
たんす(書斎) 1点
飯櫃・一升枡 各1点
焙烙なべ 1点
釜 1点
革トランク 1点
重箱(3段) 1点
金たらい 2点
たらい・ざる 各1点
五月・三月人形 各1点
はしご 1点
じょうろ 1点
古文書 一括
木箱 2点
水切りざる(写真) 2点
など

本木 孝 三島市南本町
コピー地図 2点
(昭和初期三島市街図など)
写真 4点
(昭和初期の三島など)

小池 光 三島市川原ヶ谷
馬のわらぐつ(写真) 4点(1式)



藤本 留雄 三島市梅名
そば打ち器(大正時代) 1点
のし板 1点



平沢 早苗 三島市南田町
ガスアイロン 1点
引き札版木 2点

臨時休館のお知らせ
12/17～平成14年3/31まで
館内改装のため臨時休館
いたします

利用案内

休館日 毎週月曜日(祝日の時は翌日、
12月27日～1月2日)
開館時間 午前9時～午後4時30分(11/1～12/16まで)
入場無料 (但し、楽寿園入場の際、有料)

三島駅(南口)から徒歩5分。市立公園楽寿園内

郷土資料館だより Vol. 24 No. 2 (第71号)

発行日 平成13年(2001)10月1日
(年3回発行)

編集 三島市郷土資料館
〒411-0036 三島市一番町19-3
楽寿園内

TEL 0559-71-8228
FAX 0559-81-3730

E-mail: kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp
URL: http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo

発行 三島市教育委員会